

第二期パレスチナ赤新月社医療支援事業（レバノン）の事業立ち上げ

国際医療救援部 国際救援課長 池田載子

派遣期間：2022年4月1日～2022年5月20日

2018年4月から開始されたパレスチナ赤新月社医療事業ですが、世界的な新型コロナ感染症の流行により、2020年3月に派遣要員が帰国し、その後はリモートでモニタリングなどの活動を継続していました。昨年実施されたアセスメントを元によく、2022年4月から第二期事業が再開され、要員が派遣されることになりました。北部のトリポリ市にあるサファッド病院での1年6か月間の活動を皮切りに、バルサム病院、ナスラ病院の3病院を中心に活動する計画です。今回は、前年のアセスメント時には、新築のサファッド病院が開院していなかったため、アセスメントが出来なかったこと、事業の立ち上げが必要だったこと、第二期のベースラインサーベイを実施する必要があったことなどから、看護師2名の長期派遣要員以外に、日本赤十字社医療センターの中司峰生医師と私が1か月半共に活動を行いました。

サファッド病院は新型コロナ感染症の入院患者受け入れを行うために、当初の予定から更に改築が行われたため、病院の全ての部署や機能が100%稼働できていませんでしたが、救急外来を含めた外来や、産科・外科・内科・小児科病棟などは稼働していました。



サファッド新病院

新型コロナ感染症の流行がなければ、第一期事業でサファッド病院は支援予定だったのですが、延期となったため、病院職員は支援を待ち望んでいました。事業を行う際、非支援側の受け入れが最も重要です。ひとまず受け入れが非常によかったことに、私たちはほっとしました。

事業立ち上げ班である私たちが行うことは、いくつかありました。第一に、元々サファッ

ド病院にある質管理や感染管理委員会などの運営支援と、事業に必要な活動グループの設立を行い、それぞれの活動のカウンターパートを作っていくこと。第二に、事業計画を説明し、カウンターパートである彼らに事業を理解してもらい、支援されるだけでなく、一緒に活動していくという意思を持ってもらうこと。第三に、新病院のアセスメントを実施すること。最後に事業のベースラインデータを収集することでした。



立案した計画を元に、具体的にどのように活動を行うのか、連日話し合いを持ちました。

残念ながら予定したことの半分くらいしか活動中に実施できませんでした。この事業開始にあたり、昨年のアセスメントの時から、通訳とプロジェクトアシスタント兼クオリティオフィサーの雇用を進めていました。しかし、パレスチナ赤新月社に雇用プロセスを進めてもらうよう度重なる要請を行いましたが、事業開始時には両職種とも雇用されていませんでした。言葉の壁は大きく、通訳者なしでは、アセスメントもままなりません。派遣期間中に雇用面接を行い、ようやく通訳者を雇うことは出来ましたが、プロジェクトアシスタントの雇用は持ち越しになりました。

また、トリポリ近郊で密出国しようとした船が沈没し、多くのシリア難民やパレスチナ難民が死亡し、そのためトリポリ周辺でデモなどが行われ、治安が悪化したため、ベイルートへ急遽退避せざるを得なくなりました。また、レバノンの大統領選挙に伴う治安悪化の恐れがあり、再度首都ベイルートへ退避するなど、サファッド病院で活動できない期間が予想以上に長くなり、予定はますます遅れることになりました。

新病院のアセスメントはなんとか終了し、実際にどのような活動を実施していくのか決定していくことは出来ました。また、病院長、看護部長、診療部長などで構成されるエグゼクティブ会議を1回/月開催できるように設定し、事業の課題や方策を話し合いできるようにしました。しかし、新病院に移転に伴い、それまで行っていた委員会活動やデータ収集などは中断しているものが多くあり、派遣期間中に再開することは出来ず、ベースラインデータの収

集もほとんどできませんでした。多くの事柄を長期派遣の要員に依頼することとなってしまいました。

I EXECUTIVE MEEING



• Members



さらに、これまで日赤と共に事業を行ってきていた、パレスチナ赤新月社のレバノン支社代表のサメル医師が退職されるということを、帰国前の表敬訪問で告げられました。サメル医師の事業に対するこれまでの貢献は非常に大きいものでしたので、大きなショックを受けました。

事業は計画通りにいかず、予想外のことが起こり四苦八苦ししながら実施していくものです。今後も様々な困難があると思いますが、現地職員の方々と日赤の派遣要員の方々の熱意と努力で事業を進めていってくれと期待しています。